

D・H・カルプ 著
喜多野清一 譯
及川宏

南支那の村落生活

—— 家族主義の社會學 ——

生活社刊

南支那の村落生活

出文協承認
ア 30069

(1500部)

昭和十五年九月三十日 印刷
昭和十五年十月五日 發行
昭和十七年九月十五日 再版

南支那の村落生活

定價 四圓八〇錢

譯者 喜多野清宏
及川

發行者 鐵村大二
東京市神田區須田町二ノ一七

印刷者 鈴木芳太郎
東京市四谷區本村町四

發行所 株式會社 生活社
東京市神田區須田町二ノ一七
振替口座東京四三三〇一番

電話 浪花・一四一八番
電話 浪花・一六四番

印刷・立眞社
製本・石井製本所

配給元

日本出版配給株式會社
東京市神田區淡路町二ノ九

四千年の農民に捧ぐ

再版への序言

このやうな特殊な研究が多くの歓迎を受けることを譯者は豫期しなかつたのであるが、それは一面に於て我國の支那社會研究が一段高度化したことを語るのであらう。それにつけても譯者の義務として誤譯拙譯の排除を果さなければならぬのであるが、諸種の事情のためこの度は誤植の訂正と若干の改譯とに止めざるを得なかつた。譯者はこの次の機會に一層正確で平明なものに改めることによつて、出刊以來寄せられた諸方面の好意に對し應ふところあらんことを期してゐる。なほ大方諸賢の垂教を乞ふ次第である。

昭和十六年十一月卅日

日滿華三國締盟一周年紀念日の夜

譯

者

譯者序言

本書は Daniel Harrison Kulp II: Country Life in South China. The Sociology of Famulism, New York, 1925. の全譯である。

著者カルプは支那に十年近くも在住し、主として上海にあつて社會學を講じたり社會事業機關たる Industrial Hospital of the Yangtsepoo Social Center を主宰したりしたが彼は當時コロムビア大學の教育學助教授の地位にあつたのである。彼には本書に先立つて公けにした Civics, An Inductive Study of The Elements of Community Welfare in China. 其他の研究があり、或ひは近著としては Introductory Sociology, 1936. がある。しかし彼の名を不朽たらしめたのは實に本書であつた事改めて述べるまでもない。本書は彼の滯支中、即ち一九一八及び一九年夏と二三年春との三回に亘る現地調査の結果を主要資料として、支那社會の基礎的構造である村落社會生活の包括的研究を成し遂げたもので、著者も自ら序言で言つてゐるやうに、おそらく支那村落共同態の社會學的調査として完備した最初のものと言ふべきであらう。

支那村落の研究はその後、特にロシア及びアメリカの學者の手によつて進められてきたが、カルプのこの著はこれらの學者によつて常に問題とされてきたのであつた。米國農村社會學の指導者である D・サンダーソンはこの書を評して、「近時カルプ博士は『南支那の村落生活』なる著書によつて、支那村落に關する最初の完全な社會學的分析を提供してくれた。しかしカルプ博士の取扱つたのは南支那の一村落であつて、しかも博士は他のどの村落との比較をも示されないものであるから、この極めて優れた記述をもつて全支那村落に推し及ぼすことは出来ない。しかしながらカルプ博士のこの著書こそは、村落共同態調査の標準型を示せるものであつて、支那村落に關する一般的立言の基礎として學徒の必ずや一讀すべきものである」(Dw. Sanderson: Rural Community, 1932, p. 135)と述べてゐるのは、この書の支那村落研究上に占める地位を妥當に語つてゐるものと思ふ。殊にこの書の公刊されるまでは、多くの研究者の論じて來たのは主に北支那村落に就てゐあつて、南支那村落についての完全な研究は實は本書によつて初めて提供されたと言つてよいし、また今日でも南支那村落研究の貧しい状態は著しく變つてはゐないのである。カルプの社會學的方法是流石にアメリカ社會學の特徴を傳へてゐる。心理學的分析を重視するごときはその一つの現れである。また村落共同態に關する考へ方、その把握の仕方のごときは、

當時アメリカに於て科學的農村社會學の樹立のため活躍してゐたギャルビンの研究方法に何程か學んでゐるやうに思へる。殊に本書の特徴とすべきは宗族及び家族に關する分析であるが、その機能に重點をおく取扱ひ方は可成り成功してゐて、それは支那家族研究上たしかに問題とされてよいものであらう。

鳳凰村は單一の同族によつて構成されてゐる比較的靜態的な村落共同體である。カルプの方法はなほ完全とは言へないとしても、此處に科學的探查の光は投ぜられて、少くともこの地點に關しては南支那村落生活の特徴が鮮明に描き出されてゐる。支那民族の社會生活の眞の理解に達するためには、選ばれた社會集團の精密な研究から始めねばならぬとする彼の考は、ともかくこゝに實現されてゐる。支那社會の理解に最も必要な、村落と家族に關する科學的處理を経た資料がこゝに提供されたのである。本書を邦文に移しておく必要は決して尠しとしない。我々が自らの不敏を顧みずこの譯業に従つた意圖もまたこの點にある。

譯出に當つてはまづカルプの理解を尊重する態度をとつた。當時の研究段階に於ては、たとひ優れた支那人の助手を率ゐてゐたとは言へ調査研究には多くの不便と困難があつたであらう。從つて支那村落には如何にも似つかはしくない表現もあるが、特にそれを支那的に改めるといふ事

を避けることにした。例へば結社の名稱の如きはその一つである。これは許されてよいと思ふ。但しそのために事柄が混同される虞れあるものは適當に處置を施した。例へばカルブによれば、宗族支派のもつ祠堂も、個々の家屋内の正廳もともに *ancestral hall* とされてゐる場合の如きである。次に譯出は出来るだけ平明を期した。しかし事柄の性質により、また我々の力の不十分なために、なほ晦澁に陥つた部分の少くないだらうことを御詫びせねばならぬ。

調査地域に就ては本文第一章に詳しく述べてあるので贅言を要すまい。たゞ是非おことわりせねばならぬのは鳳凰村といふ地名である。之は本書を引用する人々が例外なく使用して來たのであるが、しかし本書中には實は一度も本來の村名が用ひられてゐない。本書では村の名は恒に *Phoenix Village* とよばれるに過ぎぬのである。我々は潮州府志、海陽縣志、或ひはこの地方の五萬分一地圖等に就て之を検出したが遂に的確には見出し得なかつた。但し *Phoenix Mountain, Phoenix River* が夫々鳳凰山、鳳水（鳳溪）である事は推定に難くない。其等との關係から見ると鳳棲村が最も調査地と位置が酷似して居り、且つ著者が第一章冒頭に「麗しい名」と云つた事とも符號する様に見える。たゞ海陽縣志の記載を見れば若干の疑問が生ずる。鳳棲塘に於て韓江合とするのは鳳水ではないからである。即ち同縣志「輿地略四」には次の如く述べてゐる。

韓江 在郡城東源由汀贛循梅水諸水匯於大埔三河循河南注至豐順——中略——又屈東南流十里至二

塘東岸登榮下約水自東北來注之

登榮下約水一名鳳水又鳳溪發源鳳山合登榮下約諸山水匯於溪尾始可通舟西南流六七里分爲二一北流繞溪口鄉後至沙洲一南流環塘埔湯頭趨沙洲北流

由龜湖溝口入江

西岸葛後坑水西來注之——中略——又東南流十里至頭塘龍舌坑水自東北注之

頭塘龍舌坑水源出九郎山北

赤水嶺下逕別峯

山至鳳樓塘入江

又東南流十里於東津鄉前繞郡城——下略——

同じ縣志に就て見るに調査地を含むものと推定される東廂都には七十一の村名があるが Phenix と聯關するのは鳳樓と鳳美だけである。後者は「在埔上東北距城六里」で調査地に比定する事はでき難いが、前者は「在象埔西距城十四里」とあり、さきの記述と結び合せるとこれが調査地ではあるまいかと考へられる。併し更にこの一村をカルプの所謂 Phenix Village とする事には問題がある。本書に屢々出て来る “Tan” Village 及び “Tanton” の位置が明かにならぬからである。譯文に於ては我々は「塘」村及び「湯頭」を此の二者に當てた。前者に就てはカルプの調査地が實は鳳樓村であり、これに對して鳳樓「塘」の船着場を中心とする聚落が「塘」村とされたのではあるまいかとの考へに依るが、後者に就ては發音の類似とそれが鳳水の北岸にある事に基く。たゞ鳳樓村は龍舌坑水を距て、北岸の「頭塘」に對する事は海陽縣志の述べるところである。従つて此等の地名に關しては實は大方の垂教に俟つ外はない。譯文に於ては夫故に一般の

用例に従つて調査地に對して鳳凰村の名を用ひる事にしたのである。

本書の譯出は全く畏友牧野巽氏のおすゝめによつたものである。しかも同氏には譯出に關して終始種々な御示教にあづかつた。その他小山榮三氏からは人種學關係の、また福建省出身の陳清金氏からは鳳凰村附近の方言や慣行について、それぞれ専門的な御教示を得た。その他なほ助言を賜つた方々も少くないが、特に右三氏には深厚の謝意を表したい。なほ出版に關しては生活社前田廣紀氏の並々ならぬ御盡力を得た事を感謝する。現在の様々な困難にも拘らずこの譯書を出來るだけ原書の形に近づけようと努力して下さつたのである。本譯書は全くこれらの方々の御力添へによつて成つたのであるが、譯者の淺學はなほ少なからぬ誤謬を犯してゐるだらう。幸ひ御叱正を得て次の機會の訂正に資したいと思ふ。

凡 例

一 調査地域たる鳳凰村其の他の考證に就ては譯者序言を參照せられたい。

二 譯書中に單に註として示したのは原著者に依る。譯者のそれは譯註として區別した。

三 傍點は原著にてイタリックを用ひたもの。但し家長 (*Chia-chang*)、風水 (*Fen sui*) 等の如く屢々出る語に就ては傍點を省略した。小活字の使用は原著に倣うたものである。

四 目次は章の外に節毎の題目を譯者において附加した。但し原著にある寫眞、統計表、地圖、圖表の目次は之を省略した。

五 索引は原著に依り、その翻譯を五十音順に配列した。但し原著の索引は語彙索引としても、事項索引としても實は不完全極るものなので、譯書に於ては寧ろ事項索引たる事に重點を置き之を取捨したが、不徹底を免れない。後日新しく之を整理するつもりである。尙索引のゴチックで示した頁は序説の分である。

六 原書には誤植が相當多い。その若干は之を指摘したが、明瞭なそれは適當に處置して指示を省略した。

七 譯の分擔に就ては次の如くである。

序言より第六章まで及び附錄——喜多野 第七章より第十二章まで及び索引——及川

但し譯語の統一と誤謬の訂正に就ては隨時聯絡し、且つ校正を交換する事により之を鈔からしめることに努めた。

序　　言

以下の各章に盛られてゐる内容は、支那の事物の研究者のために、特にその村落生活に關して著しい資料の不足を補ふ目的で、提供されたものである。それは廣東省の北部にあつて、汕頭がその出口になつてゐる地理的及び社會的排水區域に位置する、特殊な村落の精密な分析を提供するものである。

支那の村落生活を取扱つた著名のものとしては既に三つある。即ちドゥリトルの「支那人の社會生活」(Doolittle: Social Life of the Chinese)、スミスの「支那村落生活」(Smith: Village Life of China)及び梁及び陶氏の「支那の村落及び町の生活」(Leang and Tao: Village and Town Life in China)がそれである。第一のものは大體揚子江南部地方を扱つたにすぎず、第二のものは北支那の生活を取扱つたものである。第三のものは全支那帝國に當て嵌め得る諸特性を示唆しようと試みたものである。この支那人でなく且つハーバート・スペンサーの記述社會學を基礎とする社會學的手法を用ひる人々によつて書かれた最初の二著は、なるほど甚だ啓蒙的ではあるが、しかし今日

の社會組織の要求には不満足なものである。最後の著書は、近代社會科學の訓練を受けた支那人の手で編まれたといふ長所を持つてをり、より嚴密に社會學的貢獻となつてゐるが、しかしこれまた分析に當つての社會學的研究法の使用に缺陷がある。これらの三書はすべて、諸事實が著しく相違してゐるからこそ、個別的取扱をなして初めて眞理を顯現してくる如き廣大な地域を、概括的論述によつて包括しようとしてゐるのである。支那生活の廣汎な領域に關する概括論の危険は既に今日充分認められてゐることであつて、支那人と外國人と兩方の指導的な思索家の間では一個の笑柄とさへなつてゐる程である。

村落生活に關する舊い資料は二つの理由で威信と信頼とを失つて了つた。一つの理由は取扱の概括性の故であり、他の理由は生活條件の變化のためである。しかし村落生活に關する事實と解釋に對する要求は今日以上に大きかつたことはない。今日國民生活に於ける村落の戰略的重要性は愈々認められつゝある。教育家も布教師も政治家も經世家も村落こそは支那の背景であることをはつきりと知つてゐる。それは國土の殆んど凡ての人口を、そして貿易の滲透と交通との近代條件の下にありながらなほ國際的重要性を持つてゐる農業に従事する人々を包含してゐるのである。

農業生産物の改善に、從つて農民收入の改善に關心を有する經世政治家は、農村状態に見られ

る趨勢と傾向を發見するやうに分析された、村落生活の諸事實を要求してゐる。それは農村生活樣式の發達——これこそは新しい國民的發展のための固有の基礎を整へ得るものなのだ——に關係を持つてゐるのである。教育家は思想教育の組織と實踐との對象を決定するための基礎となり、信賴しうる農村社會學を要求してゐる。布教師は、彼等の抱いてゐる宗教的理想を町や村落に適用することによつて、そのものゝ社會化に今日大いに従事してゐるのであるが、村落に關する分析的で解意的な資料の缺如に制束されてゐる。支那の農村生活の諸問題を取り上げんとする指導者達の數は絶えず増加しつゝあり、そして彼等の努力の價値は實に直接に農村生活の社會學——研究と分析の最新の方法を使役するところの——の發達如何にかゝつてゐるのである。

政治教育宗教及び社會事業によつて利用されるに値する如き支那の農村社會學は、支那全土に涉つての特殊の農村共同態の、個別的にして且つ有機的な事例研究によつて、初めて成し遂げられるものである。愛國的理由によつてゝあれ、又は宗教的理由によつてゝあれ、國民的發展に關心を持つ人士は、全支那を通ずるあらゆる地區の社會的土壤の終局的分析を目的とするやうな研究プログラムを編成するために、何處であれそれが可能なところへ調査中樞を建設することには心から協力しようとするであらう。かくて認知される諸種の社會的土壤の性格は、やがて新しい社會秩序の中

に成育するであらう市民の種類を決定するだらう。この新しい社會秩序が必ずより良きものであるといふことは全然當てにはならない。多くの場所はその土壤の不完全であることが發見されるだらう。その場合には社會的技師——政治家、宗教的指導者、教育家、社會事業家達が、中和的作用を持つた石灰水とか有効な生産増進性のある肥料を施さねばならない。

この研究は、此處に選擇された地方以外の支那の諸地方に於ける、直接の着手にとつても實施しうる一つの方法を示唆するものである。しかしそれはまた、比較的靜的な條件の下では如何なる制度と民俗とが發現するものであるかを示すところの、共同態——それは何處の共同態であれ——に關する現存の知識への寄與をなすものでもある。それは印度歐洲及び亞米利加の村落共同態との比較研究のための資料を供給する。またそれは傳統的社會諸關係、態度及び價值の急激な攪亂——それは支那が愈々繁く爾餘の世界と接觸することから生起する——を指摘するものでもある。

種々な仕方で貴重な協力を與へて下さつた方々に對し、一々感謝を捧げること——私はさうしたいのだが——様々な事情のために私は躊躇する。住民の體質的特性を研究する機會を私に與へて下さつたのは、前のペトログラード學士院評議員であり、人類學者で且つ民族學者であるエス・エム・シロコゴロフ教授の御好意によつてであつた。氏は私に氏の人體計測器具を貸與され、且つ人

種型の最新最良の調査者達が用ひてゐる計測と計算の方法に習熟させて下さつた。村落民を人種別に位置づけることの出来たのは全く同一法を基礎とする共同研究によつてであつた。

私は汕頭及び潮州にある多くの傳道者の友人達から厚誼を蒙つたこともはつきり申し述べておきたい。彼等はその寛大な厚遇と忠告と助力とによつて、私の現地仕事をずつと愉快に且つ有益にして下さつたのである。最後に、上海徐家滙のカトリック神父達が與へられた援助に對し謝意を表することも一つの喜びである。彼等はその氣象學文庫の素晴らしい資料を私の自由に使用させて下さつたのである。

D · H · K · I